

# 「鳥居・井上基金」助成実施報告（TIE-02, 2017年度第2回）

提出日：2017年11月17日

氏名・所属 森田 雅明（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門）

集会名 2017年度火山性流体討論会

期 間 2017年11月13日～15日

## 研究会の概要

本研究会は、火山性流体・地殻流体（火山ガス・熱水・マグマ・超臨界流体・地下水など）の観測・分析・モデリングなどにもとづく研究やアイデアについて、時間をかけて討論することを目的とし、毎年関東周辺で開催しています。本年度は、茨城県つくばみらい市のつくばセミナーハウスを会場として、例年通り2泊3日の合宿形式で開催しました。参加者は27名（学生9名、若手16名、中堅以上2名）で、口頭20件・ポスター5件の発表がありました。

鳥居・井上基金でいただいた助成は、主に遠方から参加する学生の旅費援助に使用しました。そのおかげで、卒研配属前の学部3年生や、北海道大学や九州大学といった遠方の大学院生など、学年・地域の隔てなく多様なバックグラウンドを持つ学生が参加することができました。学生の参加者は、全員が本研究会に初めての参加であり、地球化学的研究を中心とした本研究分野の発展に鳥居・井上基金が有効活用されていることの表れと言えます。

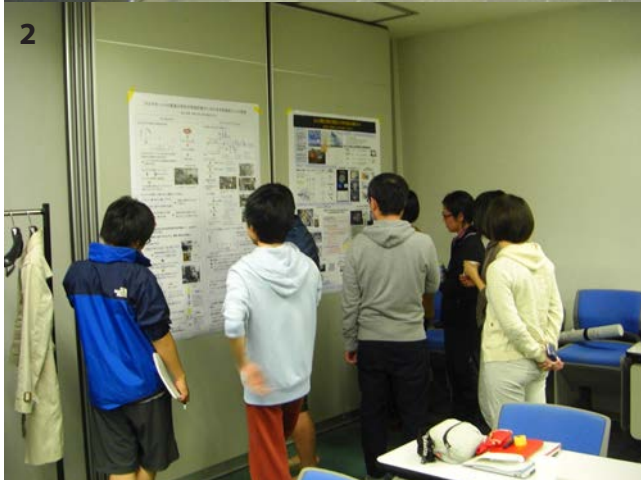
## 研究会の内容・感想

本年度の発表も、その内容は多岐にわたりました。研究会前半では、火山岩・変成岩の鉱物学・地球化学的分析にもとづくメルト・流体の元素挙動について、時間的・空間的な幅に富む多くの話題が提供されました。研究会後半では、火山ガスやマグマ中の流体について、そのソースと脱ガス、流体上昇に関する、サンプリング・分析による地球化学的研究や理論的な研究の紹介がありました。また、新たな分析手法・機器の開発といったチャレンジングなテーマや、モデル計算による沈み込み帯での元素挙動、火山での地球物理学的観測などについても紹介がありました。

提供された話題はバラエティに富みますが、研究手法や対象を超えて共通するサイエンスがあり、本研究会での議論は参加者にとって実りの多いものとなりました。一方で、大きな学会では触れることの少ない近隣分野の話題を互いに聴く機会でもあり、異なる視点からの質問・コメントは刺激的でもありました。セミナー形式での進行で、発表の途中で質疑応答が挟まれるため、ひとり40分の持ち時間を超えることも多く、じっくりと時間をかけた議論ができたことも、参加者にとって有益であったと思います。発表終了後の休憩時間や夜間にも、参加者が研究内容について議論する姿が多く見られ、世代を超えて議論・交流する場が提供できたことを嬉しく感じます。

学生の参加者にとっては、研究の目的や戦略、結果の解析や解釈・議論などのあらゆる部分で細かくアドバイスを受ける機会になりました。学位審査や学会発表への良いステップとして本研究会が機能していると感じました。また、研究の面に限らず、同世代や上の世代との交流ができたことは、研究を続けていくモチベーションにもなると思います。本研究会が、修士から博士、その先へとつながっていくきっかけになれば嬉しい限りです。

本研究会のように、学生や若手研究者にとってじっくりと時間をかけて議論する場が提供されている意義は大きく、今後も本研究会が継続していくことが分野の発展に非常に大切であると認識しています。最後になりますが、鳥居・井上基金の助成により本研究会が充実したものとなりましたこと、改めて深くお礼申し上げます。



1. 最終日の集合写真 2,3. 白熱したポスターセッション 4. 真剣に発表を聴く参加者 5. 懇親会も盛り上がりました